

東京芸術劇場Presents **ブラスウィーク2014**

9月21日(日)15:00開演 シエナ・ウインド・オーケストラ・28日(日)14:00開演 東京佼成ウインドオーケストラ・10月18日(土)14:00開演 東京吹奏楽団 コンサートホール

**ファン必聴!吹奏楽の勇者たちが池袋に集結**

新しいアイデアも楽しいシエナに注目

ハワフルなリズムや豊かなハーモニー、カラフルな音色によるアンサンブルやそのなかから浮かび上がるソロ。多彩な魅力をもつ吹奏楽は、クオリティの高い作品と音楽愛にあふれた演奏によってさらに感動を呼ぶ。吹奏楽リスナーや楽器を手にするファンたちに「プラスってやっぱりいいよね!」とアピールする『ブラスウィーク』は、吹奏楽シーンにおけるスター楽団のコンサートで作品の素晴らしさを再認識。さらには楽器クリニックなども行われ、吹奏楽を広く深く楽しめる秋の注目シリーズだ。

今年の幕開けは、コンサートでなにかが起ころいそうなる予感を漂わせるシエナ・ウインド・オーケストラの定期演奏会。音楽を楽しく、そしてサプライズなアレンジで聴かせてくれる宮川彬良が指揮台に登場し、自作品から、ミュージカル、吹奏楽の定番曲までじっくりと聴かせてくれる。共演も多い両者ならではの、冒険的な演奏を期待できるかもしれない。またこのコンサートでは業界初?となる「投げ銭コンサート」実施に向けて大実験を企画中とのこと。内容は当日までのお楽しみだそうだ。

充実したサウンドの2団体が名演を披露

その1週間後に登場するのは、こちらも吹奏楽シーンの雄である東京佼成ウインドオーケストラ。記念すべき第120回の定期演奏会は、常任指揮者・首席客演指揮者を歴任したおなじみのダグラス・ボストックが指揮台へ上がり、このコンビだからこそ素晴らしい演奏が聴けるイギリスの吹奏楽オリジナル作品集(グレインジャー、グレッグスン、スパークほか名作ぞろい)を取り上げる。また今年はこの楽団と関係が深く、世界中の吹奏楽ファンに愛されたフレデリック・フェネルの生誕100年・没後10年。マエストロの偉業をあらためて振り返りつつ、多くのコンサートや録音で演奏してきたオリジナル作品を、じっくりと味わえるチャンスだ。

10月に入ってステージに登場するのは、2013年に記念すべき創設50年を迎えた東京吹奏楽団。指揮台に登場するのは今年から東京佼成ウインドオーケストラの正指揮者となり、吹奏楽シーンへと活躍の場を広げている大井剛史だ。コンサートの前半は吹奏楽ならではの音色とアンサンブル、繊細なテクスチュアなどが楽しめるJ.S.バッハの作品。そして後半

は名曲『ブラハのための音楽1968』をはじめ、カレル・フサとヴァーツラフ・ネリベルというチェコの2大巨頭が生み出したオリジナル作品を演奏する。新時代を迎えた東吹(とうすい)をたっぷりと味わえるプログラムなのだ。

3つの楽団それぞれが特徴のあるプログラムを演奏するため、日本で最高級の吹奏楽を味わえ、同じ東京芸術劇場のホールであるため比較をする楽しみも。まさに『ブラスウィーク』ならではの楽しみ方ができるだろう。

無料コンサートやクリニックも

また「今年『ブラスウィーク』に出演しないの?」という声も上がりそうな大阪市音楽団は、「ティータイム・コンサート」にアンサンブル編成で登場予定。およそ30分の無料コンサートだが、開放的なコンサートホールのエントランス(ロビー)で行われるため、誰もが気軽に演奏を楽しめる。大阪市音楽団ファンは、もちろん必聴だろう。ほかにも中学生・高校生を対象としたプロ演奏家によるクリニック、そして宮川彬良指揮によるホールでの演奏なども。すべてが吹奏楽で染まる『ブラスウィーク』は、今年もアツい祭典になること間違いなしだ。

文：オヤマダアツシ

<p><b>シエナ・ウインド・オーケストラ 第38回定期演奏会</b> 9月21日(日) 15:00開演 コンサートホール 指揮:宮川彬良 吹奏楽:シエナ・ウインド・オーケストラ A.リード/アルメニアン・ダンス パートI ほか SS席5,500円 S席4,500円 A席3,500円 B席2,500円 ※学生はB席500円引き チケット発売中 主催:一般社団法人ジャパン・シンフォニック・ウインズ 詳細はP14へ 宮川彬良</p>	<p><b>ブラスウィーク関連イベント</b> 東京芸術劇場ティータイム・コンサートVol.8 10月2日(木) 14:00開演 コンサートホール・エントランス(5階) 出演:大阪市音楽団による金管五重奏 全席自由・入場無料 主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)</p>
<p><b>東京佼成ウインドオーケストラ 第120回定期演奏会</b> 9月28日(日) 14:00開演 コンサートホール 指揮:ダグラス・ボストック 吹奏楽:東京佼成ウインドオーケストラ P.スパーク/宇宙の音楽 ほか S席6,000円 A席4,500円 B席3,500円 C席1,000円 チケット7月9日(水)発売 主催:佼成文化協会/東京佼成ウインドオーケストラ 詳細はP14へ ダグラス・ボストック</p>	<p><b>バンドクリニック</b> 『中・高生のための楽しい吹奏楽』 10月12日(日) コンサートホール ほか 内容:楽器別クリニック(パート練習)、合奏(リハーサル)、本番 課題曲:宮川彬良/Fun,Fun,Fantastic! 宮川 泰(編曲:宮川彬良)/宇宙戦艦ヤマトのテーマ 指揮:宮川彬良 楽器別講師:大阪市音楽団、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京佼成ウインドオーケストラ、東京吹奏楽団 団員より *バンドクリニックの詳細・募集概要については、劇場HPにて発表いたします。 主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)</p>
<p><b>東京吹奏楽団 第61回定期演奏会</b> 10月18日(土) 14:00開演 コンサートホール ウェルカムコンサート、プレトークあり 指揮:大井 剛史 吹奏楽:東京吹奏楽団 K.フサ/ブラハのための音楽1968 ほか S席5,000円 A席4,000円 B席2,000円 ※B席高校生割引1,000円 チケット発売中 主催:一般社団法人東京吹奏楽団</p>	<p>●ブラスウィーク2014 3公演S席セット券 12,500円(限定50枚) チケット:7月8日(火)発売 お申込先:東京芸術劇場ボックスオフィス TEL 0570-010-296 [休館日を除く10:00-19:00]</p>

助成:平成26年度 文化庁 劇場・音楽堂等活性化事業

世界のマエストロシリーズ vol.2 **ラドミル・エリシュカ&読売日本交響楽団**

10月30日(木) 19:00開演 コンサートホール

**遅咲きの巨匠による極めつけの〈新世界〉**

ことし3月、「音楽大学フェスティバル・オーケストラ」を指揮して『新世界交響曲』の感動的な演奏を聴かせてくれたチェコの名匠ラドミル・エリシュカが、この秋、早くも東京芸術劇場の指揮台に帰ってくる。

「世界のマエストロシリーズ vol.2」で、いま絶好調の読売日本交響楽団を指揮するエリシュカは、1931年生まれ83歳。若い頃から日本を訪れ、80代、90代になっても現役として活躍する指揮者は少なくないが、エリシュカの場合は初来日が2004年と遅く、しかもその当時はほとんど無名の存在だった。

チェコ東部の町ブルノのヤナーチェク芸術アカデミーで、ヤナーチェクの高弟だった指揮者で作曲家のブジエチスラフ・バカラから指揮を学んだエリシュカは、『新世界交響曲』のヨーロッパ初演を行った歴史あるオーケストラ、カルロヴィヴァリ交響楽団の音楽監督を1969年から21年間の長きにわたってつとめた(カルロヴィヴァリはベートーヴェンやショパンも滞在したチェコ西部の温泉保養地)。エリシュカは、ノイマンやコシュラー、ピエロフラーヴェックといった、同時代のチェコ出身の指揮者にまったくひけをとらない実力の持ち主でありながら、共産党の支配下にあった国営エージェンツの方針で活動の場が

チェコ国内や東欧、ソ連にほぼ限られていたために、その実力や音楽性が西側で認められることはまったくなかった。

加えて、1989年秋の「ビロード革命」と呼ばれる民主化に際しては、チェコ国内のオーケストラで自国人の指揮者を排斥する動きが巻き起こり、共産党とかかわりを持たなかったエリシュカのような指揮者までもがポストを追われてしまう。以来、エリシュカはフリーランスとして指揮活動を続ける一方、名門ブラハ音楽アカデミーの指揮科主任教授として、ヤクブ・フルシャやトーマシュ・ネトビルなど数々の俊英を育ててきたのである。

2004年の初来日に続いて、2006年12月には札幌交響楽団と大阪センチュリー交響楽団の定期演奏会に客演したが、このとき札幌では初日の演奏が大評判となり、翌日の公演には当日券を求める人が殺到して全席完売する、という「レジェンド」を作った。2008年4月に同団史上初のタイトルとなる首席客演指揮者に就任してからは、毎年2回は日本を訪れ、札幌だけでなく、東京都響、NHK響、東京フィル、大阪フィル、九州響など日本各地のオーケストラとの共演を着実に重ねている。とりわけ2009年2月に、スメタナの『わが祖国』全曲でN響定期に初客演した際の圧倒的な名演はいまでも語りぐさとなり、同年の「最も心に残ったN響ベストコンサート」第1位に選出されたこともあって、遅咲きの巨匠だったエリシュカの日本国内における評価と知名度は、一気に高まったのだ。

今回の読売日響との初共演では、ドヴォルザークの『新世界交響曲』が再び取り上げられる。私が声を大にして言いたいのは、「もう



写真左上より ラドミル・エリシュカ、河村尚子、読売日本交響楽団

『新世界』なんて聴き飽きたなあ」という音楽通の人にこそ、エリシュカのタクトでこの偉大な作品を聴いてほしいということだ。チェコ音楽のスペシャリストであり、チェコドヴォルザーク協会の会長を長らくつとめたエリシュカの指揮する『新世界』は、まさに巨匠の“名人芸”というべきもの。これまで私たちが聴いてきた『新世界』はいったい何だったのだろう、と思わせるほどの新鮮な発見と感動に満ちており、よく知る名曲だからこそ、エリシュカの凄さをはつきりと実感できるはずだ。

さらに楽しみなのが、若手ナンバーワンの呼び声高いピアニスト、河村尚子との初共演である。マエストロの創り上げる響きからは、いまや多くの演奏家が失ってしまった人間的な温もりと音楽への愛が感じられるが、河村はエリシュカのような真の芸術家に共感できる“こころ”の持ち主であるだけに、モーツァルトの珠玉の協奏曲は、私たちを至福のひとつに誘ってくれるに違いない。

エリシュカと読売日響の初顔合わせとなるこのコンサートに足を運んで、極めつけの『新世界』を共に味わおうではないか。

文：若野裕一 (編集者・音楽ジャーナリスト)